

1. 略歴

1983年3月	東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程卒業(学士)
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学印度文学専攻修士課程入学
1986年3月	同大学院(印度哲学印度文学専攻)修士課程修了(修士)
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学印度文学専攻博士課程進学
1990年3月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学印度文学専攻博士課程単位取得退学
1991年4月	日本学術振興会特別研究員(平成5年3月迄)
1998年4月	愛知学院大学文学部日本文化学科 助教授(平成16年1月迄)
1998年10月	博士(文学)の学位取得
2004年1月	愛知学院大学文学部日本文化学科 教授
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

仏教学、東アジアの仏教及び日本仏教に関する研究。

b 研究課題

東アジアにおける仏教の研究。特に日本仏教における修行、学問に関する研究を行っている。学問に関わるところでは、古代の論義に関する研究を南都に残された法会資料を用いながら考察を進めており、古代から中世に掛けて行われた仏教教理に関する論争に焦点を当てている。また、当時の僧侶の仏身観にも焦点を当てて研究を行った。また修行道に関する研究は、東南アジアや東アジア世界に伝わる止観と呼ばれる修行の実際に注意を払いながら、東アジア世界に残された文献資料を用いて、修行道の内容を明らかにすることを旨として研究を進めている。

c 概要と自己評価

2016年4月から2018年3月までの間は、科学研究費(分担)の研究の一環として、日本中世の仏教における仏身論の研究を行い学会で発表したが、論文には到らなかった。また、『法勝寺御八講問答記』のデジタル化を考え、TEI方式で記述することを企画し、学生とともに作業を開始したが作業途上である。また別の科研費で中世の仏教界に関するまとめを、修行と学問という二つの視点から行い、こちらは共著で出版することができた。2016年より寄付研究部門の部門長を務めており(アジア研究図書館附属上廣倫理財団寄付研究部門)、そちらの仕事に多くの時間を取られており、研究の時間がうまく取れていないことは否めない。とはいえ、寄付研究部門との関連で、アジアやヨーロッパの大学図書館を訪問し、情報交換をするなど、有意義な時間を持てたことは有意義であった。最終的には多少、仕事が過剰気味と思われ、また広げた仕事が多くなりすぎている感があるので、この点の調整を、今後の課題としたい。

d 主要業績

(1) 論文

蓑輪顕量「中世法相宗における理の理解」『三友健容博士古稀記念論集 智慧のともしびーアビダルマ佛教の展開 中国・朝鮮半島・日本篇』山喜房仏書林、2016.3.8: 271-288

蓑輪顕量「日本仏教における継承と伝統」『浄土真宗総合研究』10<特集テーマ 伝灯奉告法要>、2016.9.13-30

蓑輪顕量「止観研究の歴史とその現代的意義」『印度学仏教学研究』65-1, 140号: 1-10、2016.12、印度学仏教学会

蓑輪顕量「南都の戒律—中世の復興から現代を考える—」楠淳證編『南都学・北嶺学の世界』所収、法蔵館、2018.3: 166-187

蓑輪顕量「学問と修行から見た中世仏教」: 大久保良竣編『日本仏教の展開』所収、春秋社、2018.3(査読無し): 127-165

(2) 学会発表

国内、蓑輪顕量、「止観研究の歴史とその現代的意義」、日本印度学仏教学会、東京都文京区 東京大学、2016.9

国際、蓑輪顕量、「Longing for India-Japanese Buddhist and India」、Buddhism in India-Japan Relations、Tagore hall, in New Delhi, in India、2017.3.17

国内、蓑輪顕量、「日本中世における仏身論の展開」、日本印度学仏教学会、花園大学、2017.9.2

国際、蓑輪顕量、「日本の三論宗について」中日佛学会議、福山賓館、山東省煙台、中国、2017.11

国内、蓑輪頭量、「仏教の止観とマインドフルネス—その特徴と問題点を探る—」、日本マインドフルネス学会、於早稲田大学井深大記念ホール国際会議場、2017.12.17

国際、蓑輪頭量、「仏教の止観と日本中世の禅宗」於浙江大学、中国浙江省杭州、2018.3.27

国際、蓑輪頭量、Manuscript concerning Debates(Rongi) in the Medieval Japan and the Effective Utilization Method, Seminar In the Dakka University, 2018.3.18

(3) 予稿・会議録

国内会議、蓑輪頭量、「南都の戒律—中世の復興から現代を考える」、南都学/北嶺学の世界、奈良県奈良市薬師寺食堂、2017.5

『南都学・北嶺学の世界』、166-187 頁、2018.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

立正大学大学院 非常勤講師

東洋大学大学院 非常勤講師

(2) 学会

国内、日本印度学仏教学会、理事、評議員、常務委員

国内、日本宗教学会、常務理事、評議員

国内、東アジア仏教研究会、会長

国内、パーリ学仏教文化学会、理事

国内、KIERA-LP 学会、会長 (2015.10～)

(3) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

一般財団法人東京大学仏教青年会、理事